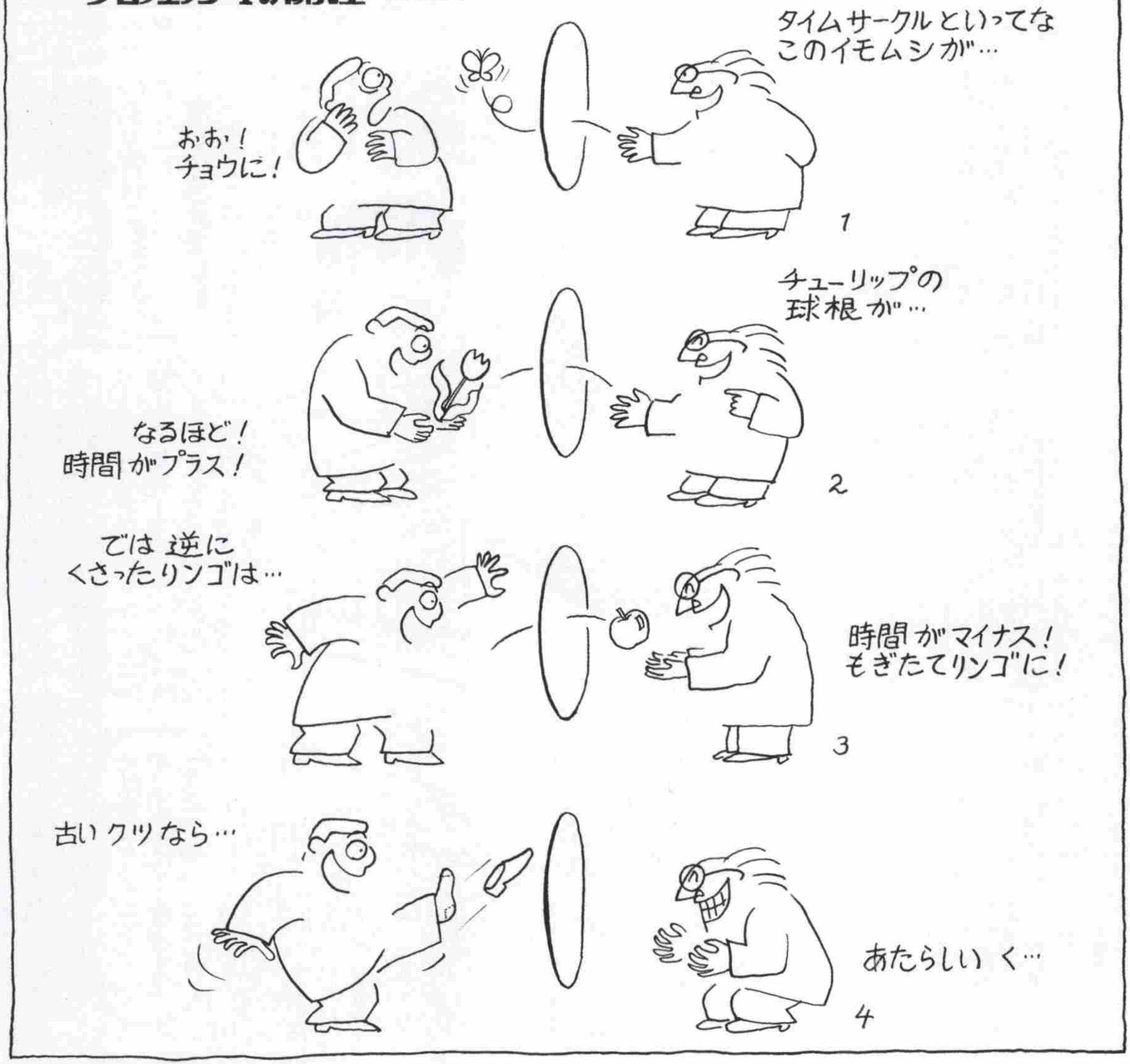
プロフェッサーPの研究室 岡田 淳



ましたけれど、看護婦さんが感じがよくてきれいで優しいですから、神戸っ子は幸せですね。こちらの人間ドックの看護婦さんも先生も素晴らしい。私もドック入りしたくなりましたわ（笑）。

医者なんか患者と会うのは一日10分ぐらいあとは皆看護婦さんやからね。医療産業都市をめざす神戸としては看護婦さんが優しく美しく、感じがいいというのは最高の売りですよ。

患者さんが血圧を計るときに、看護婦さんの手を握りたがったら、セクハラいわんと怒りなさい。患者の退院が近い（笑）。女性はベッドでお化粧を始めたら元気になって来た証拠。これは確かですよ。

ーやあ、面白いわねえ（笑）

人間なんて、ほんとに変らない。ソクラテスの時代から今まで（笑）。そんなもんですよ。

ーやっぱりドック入りせんとあきませんね。

おかげで、毎年、二回三回と入る人が多い。神戸大学で長かったですから、皆が私に会いに来よりますわ。まあおしゃべりも医学のうちです。

1Fロビーでサロンコンサート（6月で100回を迎える）

神戸新聞の記者にも遊びに来えへん？いうたら飛んで来るのよ。今、状勢が悪いときに社会部の記者においでという医者の方が少ない。

日本中を廻っている製薬会社のメンバーには気をつけよという。神戸っ子気質はきびしいですからね。京都やったら一度、製薬会社を決めたら三代ぐらいは同じところへ行くけれど、神戸は一辺使ってよかったらまた来てくれるけど、アカンとなったらポイと捨てる。

売上げあがったと思ってボーとしていたら次へ代る。例えばマンションにやくざが入っていても平気。神戸に住んでたら同級生にもいるし、やくざともつき合わんと仕方がない。ということを新任者にいうてありますねん。

うちの人間ドックは坂上所長が外科部長と二足のわらじをはいていますけれど、ちゃんとガードしてますから。院長の私もここでお会いしてます。

ー神戸は気楽な街ですから、お医者さまも気さくですね。

鐘紡は、伊藤淳二が神戸一中でしたからね。一中はゲートル巻いて運動場で弁当を立ち喰いしてたし、二中は芸術家が多い。私の出身校の灘中は自由人ですわ（笑）。同窓会で集ったら凄いのよ。それに小学校から甲南漬とか、関学漬とかいますからね神戸は、僕の家内は県二。

ー私も県二ではありませんが夢野台高校（笑）。

県一はしっかりもの。勉強は出来ても、料理、洗濯が出来るのは県二よ、いうてます（笑）。

私の恩師の友松達弥先生は、神戸一中三高、京大でしょ。先生の紹介を私が、御影第二小学校出身ですというたら、違います御影第二尋常高等小学校の尋常科終了です（笑）神戸第一中学校、第三高等学校、京都大学ですというと、京都帝国大学です（笑）。でも、今はどの学校もありません（笑）。

学校とか風土というのは沁みこんでいるから大事ですよ。

ー人間ドックは何日間入るんですか。

一日ドックも、二日間もありますよ。色々ありますから、彼女とゆっくり相談して下さい。

はるにゃんのHYOGO WALK

―人と防災未来センター「ひと未来館」がいよいよオープン

お話を伺った方　県阪神・淡路大震災復興本部総括部
人と防災未来センター整備室長　藤原由成さん

藤原由成さん

四月二十六日にオープンする人と防災未来センター「ひと未来館」について人と防災未来センター整備室長の藤原由成さんにお話を伺いました。

―「ひと未来館」がオープンするそうですね

昨年四月オープンした人と防災未来センター「防災未来館」に続いて、「ひと未来館」が四月二十六日にオープンします。

人と防災未来センターは、阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世に伝え、国内外の災害による被害の軽減に貢献するための施設です。「防災未来館」は、震災の発生直後から復興が進む現在までの姿を、迫力ある映像や被災者などから提供された貴重な資料で伝えています。

そして、新しくオープンする「ひと未来館」では、震災によって再認識した命の尊さや共生の大切さを多彩な映像や展示をとおして発信していきます。

さらに、センターの災害対策に関する人材育成や調査研究の機能をさらに強化するため、館内には、アジア防災センターや国連人道問題調整事務所などの国際的な防災関係機関が入居します。

―展示内容について詳しく教えてください

「ひと未来館」は、地下一階、地上七階建て、一階から三階が展示空間で、二階には「防災未来館」への連絡通路があります。

森の中をイメージさせる館内には、すべての人が、人間らしく共に生きることを目指すヒューマンケアの理念に基づき、保健や医療、文化などのさまざまな分野からアプローチした展示空間が広がります。

一階の「こころのシアター」には、「葉っぱのフレディ」が登場し、命の慈しみや生きる勇気を贈る約十二分間の映像を放映します。大型の3Dハイビジョンシアターに加え、風や振動、耳元でささやくような音響などで臨場感あふれる映像を体験することができます。

そして、二階と三階の展示空間は、自然・人・社会の三つのゾーンで構成されています。

自然のゾーンでは、倒木から新芽が芽生え、命が再生される様子を表現した展示空間などから「いのち」の大切さを発信します。

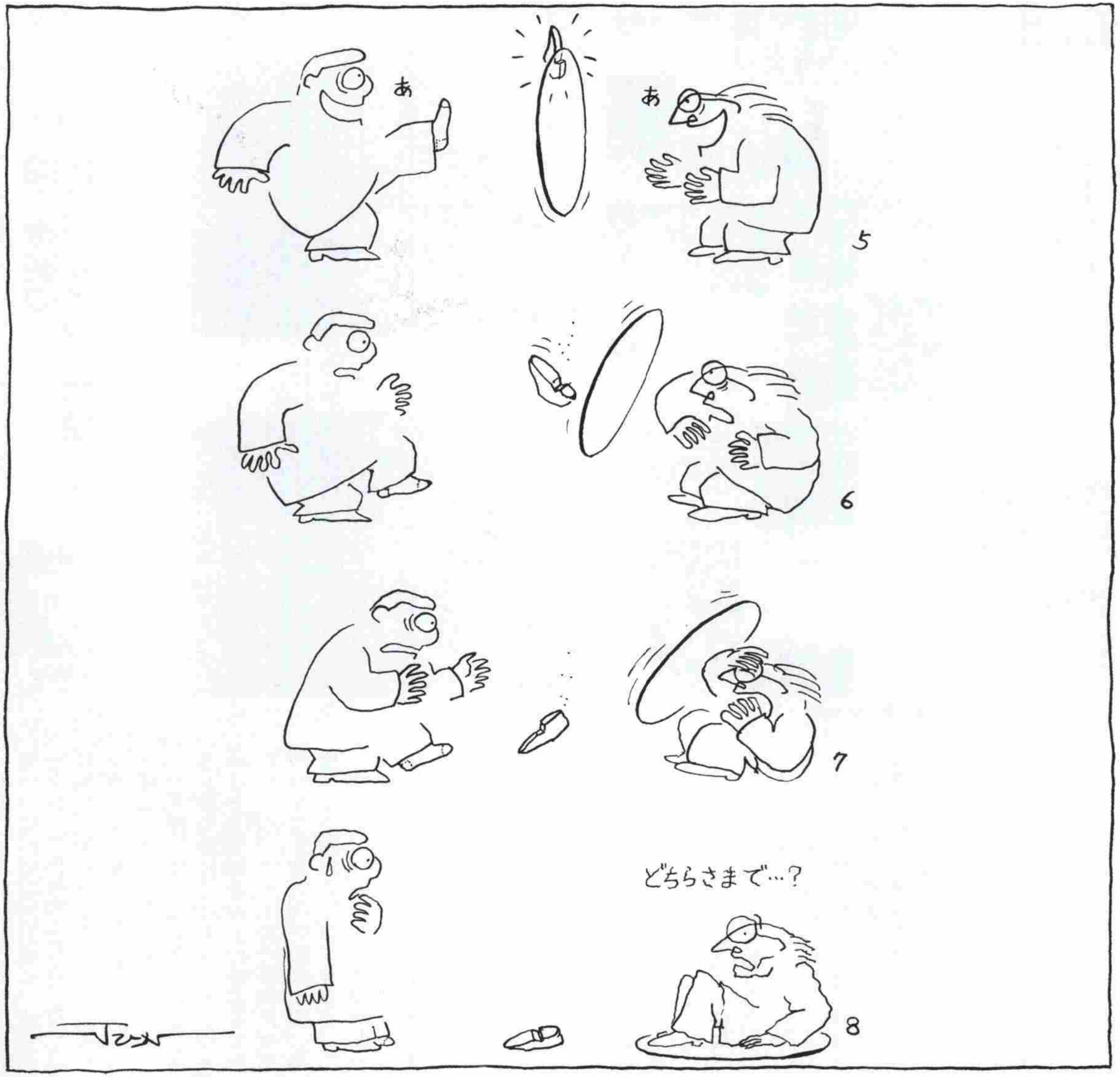
人のゾーンでは、こころとからだの仕組みを九面マルチ映像とインストラクターの対話で学ぶことができます。また、森や花の香り、映像、音響を組み合わせて創り出す「やすらぎ空間」でいやしを体験することができます。

社会のゾーンでは、音の出るユニークなオブジェをフロアに配し、来場者が協力して音楽を演奏する広場を設けました。ここでは、人と人との出会いやコミュニケーションの大切さを伝えていきます。

二十五日には、開館記念イベントとして、音楽会など多彩な企画を予定していますので、ぜひお越しください。

利用案内

■場　所／神戸市中央区脇浜海岸通1―5―2
■電　話／078（262）5050
■開館時間／9：30～17：30（入館は16：30まで）
金・土曜日は9：30～19：00（入館は18：00まで）
■休 館 日／毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）、年末年始
■入館料金／○単独入館料金　大人500円　高校・大学生400円　小・中学生250円
○両館共通料金　大人800円　高校・大学生640円　小・中学生400円
※県内の小・中学生は「ココロンカード」の提示で無料
■交通機関／JR灘駅から徒歩10分、阪神電鉄岩屋駅から徒歩8分、阪神高速道路神戸線生田川ランプから約3分など


あ
あ
5
6
7
どちらさまで…？
8

震災復興のアーバンデザイン・その3

震災復興の建築デザインの問題・上

小林郁雄
コー・プラン代表

建築雑誌2002年11月号「都市全体構想」

人と防災未来センター

兵庫県立美術館

世界のAndoさんや神戸大学後輩の三宗昭和設計社長に、直接面と向かって批難する勇気は無いが、兵庫県立美術館と人と防災未来センターは、共に震災復興のシンボル建築だが、疑問がある。

「人防」は、展示空間と展示内容が被災市民にはちょっとしんどいけど、全国の人々に是非見て欲しい。が、5・6階の研修研究部門はかなり非人間的職場空間。奉職しているから辛口になるが。

大きいばっかりで、迷路のような「美術館」の、HAT神戸の水際広場と一体となった海岸側の環境は素晴らしい。しかし、ミュージアムホールがいけない。安藤さん、あれは早々に座席の配置改造をしなければ、急すぎるし座れません。

こうした復興シンボル建築に不満は多いが、もっと問題なのは、何もしなかった多くの有名建築家達である。

丹下・槇さんはともかく、磯崎・黒川・原さん達の姿が見えないし、声も聞こえない。

さらにあの非常事態に、どうでもいい下らない計画（神戸新首都計画など）を発表した竹山聖や渡辺豊和の時代錯誤こそが問題である（そんなもんを「建築雑誌」に、復興プロジェクトとわざわざのせる布野修司もチェックが甘い）。

怒りのコメントで誌面が尽きたが、本当に問題なことは来月書く。

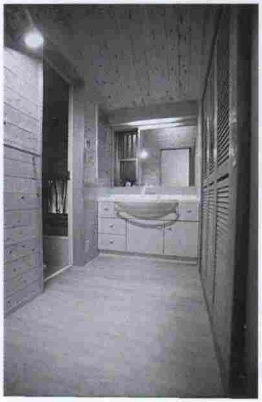
神戸の
モダン
リビング

●女流建築家シリーズ

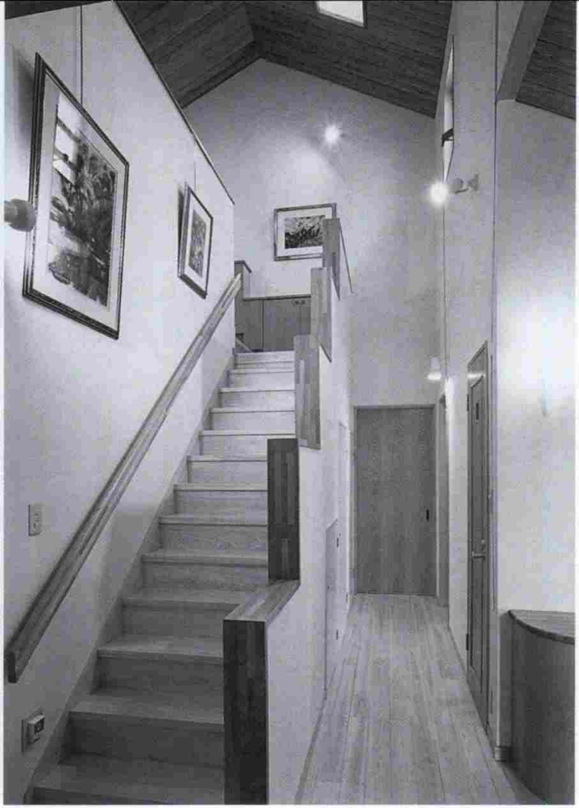
岡本の家

中川倶子
株式会社アルプラン
代表取締役

▲ゆったりと心休まる浴室



▶木の香りの洗面所



▶ギャラリーになった階段室

神戸市内の閑静な住宅街にあるOさん夫妻の家。阪神大震災で被災したマイホームを建替えました。高台に建つので、台所・居間・和室・2階の寝室・書斎などすべての部屋から海が眺められることをコンセプトにした心地良い住まいです。

浴室は残念ながら南面にできず、北側に配置。浴室のOさんの希望は、「寝てもおぼれない風呂」「くつろいで緑を眺めることができれば」。浴室をのぞくと目に入るのは窓の景色。何本かの青い竹が風情を醸しています。一・六メートルの長さがある洋式の湯殿に浴って、窓枠の額が掛かる感じ。それも湯に寝そべるとちょうど目の高さ。浴室の広さは一坪ほどだが、窓の外に幅九十センチほどの坪庭を設置しただけで、ずいぶんと広がりを感じます。ミニ竹林にはライトも備えています。「夜は浴室の明かりを消して、庭のライトだけを灯します。心休まる感じ」とOさん。時々、浴室で寝入ってしまうこともあるそうです。

洗面所は槙の板を壁と天井に貼ったので木の香りがします。

階段室はOさんの好きな絵を飾るギャラリーにしました。お風呂から出ると好きな絵が自然に目に入る位置です。浴室を日常から少し離れた非日常の場にしました。

神戸ＪＣ先輩・後輩対談⑥

緑に憩う　ウォーターフロント　ストック&イノベーションの時代へ

角田嘉宏
（有古特許事務所所長・神戸経済同友会代表幹事）
×
キラン・S・セティ
（２００３年度社団法人神戸青年会議所理事長）

地元企業を中心に、特許関係の代理人としての業務を展開する弁理士の角田嘉宏氏は、魅力ある街づくりを目指し様々な分野で活躍する。街の資源を再利用することで付加価値の高い街づくりを行うことが肝要だと話す。

角田嘉宏
昭和12年神戸生まれ。1962年関西大学大学院法学研究科修了課程修了。有古特許事務所所長／弁理士。神戸経済同友会代表幹事などを多数歴任。

実験団体として地域に貢献するＪＣ

角田　僕は、ＪＣはある意味で実験団体だと思っているのですよ。仲良しクラブなら他にもあります。楽しむだけが目的なら、ゴルフクラブをつくればいいのですから。社会のために何かをしなければ意味がないのです。楽しむのではなく、事業をやることで友情が生まれるのだと思っています。

キラン　ＪＣ活動の目的の中心は地域を活性化しながら、我々がどのように貢献していけるかです。メンバーそれぞれに、何のために活動するのか、自分の行動は地域にどう貢献しているのかを、明確に事業計画に反映してもらいました。具体的に書くとなるとなかなか難しいことです。しかしそうすることでみんなの意識を共通化して、視野を広げていきたいのです。ひとり一人のポジティブチェンジで、神戸が変わっていくはずです。それと経営の面にも重点を置いています。モチベーションアップの手段として、これまでタブーとされていたメンバー間のビジネスを、あえてオープンにしていくことによって、互々のチャンスも広がっていく。

キラン・S・セティ
ピッツバーグ大学経営学修士修得。（株）㈱ジュピターインターナショナルコーポレーション取締役専務。2003年度、（社）神戸青年会議所第45代理事長。

角田　コミュニティディベロップメントはＪＣの最終目的だと思います。しかしＪＣの事業費はたかだか知れていますよね。だからこそＪＣがやるべきこと、できることは実験なのです。デスクワークとテストを繰り返し、これが正しいと証明されれば、公表すればいいのです。それこそが若い力ですよ。おじんにはできません（笑）。勉強だけなら学者に任せておけばいい。若い人の強さは行動力ですから。僕の時代には、小学校をコミュニティセンターにしようと考え、浜山小学校で毎週イベントをしていました。日本文化を育んだのは、部落社会です。地域社会の共同体意識を守らなければと考えたのです。小学校には地域の人たちが集まるための土台があります。これもひとつの実験ですよね。

キラン　いまの神戸に文句を言うのは簡単なことですよね。僕は神戸の魅力的な資源を、もう一度再確認してほしいのです。負債のことばかりではなく、資産の見直しが大切ですよ。あとニューベンチャーを育成するシステムが必要ですよね。京都などではそれがうまく機能しているように思えます。神戸にも可能性はたくさんあるはずですから。そのためには既成概念を取り外した考え方が必要になってくるでしょう。僕が思うコミュニティディベロップメントは、「楽しくやろう」なのです。昨年には「海に感謝」というテーマでみなとまつりを復活させていただきました。今年もさらに祭を拡大する予定です。神戸の海と港の良さを再認識してもらいたいのです。楽しい地域開発をすることで、お金も人も動きますからね。

港に森をつくる
新しい神戸の港

角田　まちにとって、住みやすいこと、働きやすいことは重要です。神戸は外国人にとっては、本当に住みやすいまちだと思うのです。だからこそ、Ｐ＆Ｇという大企業も神戸に来ました。そして神戸ＪＣも、外国人のキラン君が理事長になることに、みんな何の抵抗もないのですよ。

キラン　私は仕事で日本全国様々な土地に行きますが、ターバン姿で歩いていて、物珍しそうに指を指されないのは、神戸と六本木だけなのですよ（笑）。神戸にとってはそれが自然なことなのですよ。私も子供の頃よく遊んでいた近所の友達は、日本人以外にも、いろいろな国の人がいましたから。

角田　いま神戸ウォーターフロント開発の座長をしているのです。研究会の取りまとめは終わりました。ハーバーランドからＨＡＴ神戸までを含めた約５キロの開発で

す。いま第1から第3突堤は、ほとんど使われておらず、倉庫も空いたままのものが多いのです。使われていないにも関わらず、市民は海辺を歩けないのは問題だと思うのです。海辺を整備し、もっとうまく活用すれば、デートスポットにもなる場所なのですから。

キラン　ウォーターフロント開発とみなとまつりを融合させれば、さらに大きな事業へと発展していきますよ。

角田　中突堤の根本あたりでは、空き倉庫が活用されてきているのです。これをさらに東に延ばして、賑やかにしていくべきなのです。第一突堤には緑も必要です。賑わいを興すためには、ある程度の人口が必要ですから。その第一歩として海辺に森をつくりたい。生活文化のインフラからはじめなければ何も広がりませんからね。

キラン　いまの時代は、元からあるものに付加価値を加える時代だと思うのです。ビジネスでも同じこと。

角田　つくっては潰す、スクラップ&ビルトの時代は終わりました。いまは資源を有効利用するストック&イノベーションの時代なのです。

医療産業都市構想と神戸空港成功の鍵

角田　1960年頃から2000年までの約40年ほど、日本は基本的にIC、メカトロニクス、コンピューターなどの産業で儲けてきました。しかしいまそれらの技術に、アジア諸国が追いついてきています。いまの日本には新たな先端技術の開発が必要なのです。バイオテクノロジー、ナノテクノロジーと呼ばれる分野です。これは神戸市の医療産業都市構想と密接に関係してきます。兵庫では播磨のスプリングエイトが注目されていますが、これも医療産業都市構想とリンクさせることは、十分に可能だと思います。

　いま神戸には先端医療産業センターができています。また先端産業の会社が、ポートアイランドに28社も集まっています。これをどう産業につなげていくかがこれからの課題です。

キラン　僕は神戸で育ちました。だから常に、育った環境がさらに住みやすい環境になるために考えているのですよ。ITや医療の専門家など、様々な知識をもっている外国人に住んでほしい。

角田　医療産業都市構想による国際化を図るためには、もっと仕掛

神戸空港旅客ターミナルビルイメージ図

けが必要でしょうね。
　どういうホスピタリティで、外国の人を迎え入れるのかということが重要なのです。まずは市のハードウェアから変えていく必要があります。まちの標識から何とかしなければならないでしょうね。

キラン　前々から思っていることなのですが、まちの案内はせめて4カ国語はほしいですね。これを徹底していくだけでも、随分と外国人の暮らしやすさは違ってきますよ。

角田　それとまずは国際法務専門家を育成しなければならないでしょう。神戸には国際弁護士がひとりもいないのです。国際性があるまちといいながら、これではいけないですよね。

キラン　国の課題もあります。震災のときにも問題になりましたが、日本の医師免許がなければ、外国の医師は日本で診察ができないのです。医療産業都市構想を成功させるためにも、特区として神戸だけは、外国の医師が仕事をできるような環境をつくっていきたいですね。

角田　それには医師会の反対もあるでしょうが、病院を限定するなどすれば可能でしょうね。病院も将来は株式会社化が可能になると思われるので。
　様々に変化していくグローバル化に対処していくことが、まちの住みやすさにつながっていくのだと思います。

キラン　神戸には外国人が生活するためのベースがあります。どこよりも早く、そういった環境づくりができるはずなのです。国際化と言っているうちは、国際化をなしとげていないのではないでしょうか。

角田　神戸空港の問題も、いろいろと言われていますが、僕は150万都市で空港は成り立つはずだと思っています。それに医療産業都市構想に空港は絶対に必要です。定期的にチャーター便を飛ばすことからはじめて、将来的にはアジア便をつくらなければならなくなるでしょう。

キラン　神戸空港は特に神戸以西に住んでいる人や、三宮で会社をしている人にとっては、便利になることは目に見えていますからね。あとはビジネスとして成り立つかどうかは、どこまでコストを抑えることができるかにかかっていると思います。
　管理費や維持費をどう抑えるかです。形式にとらわれるのではなく、神戸の地の利を生かして、柔軟な発想で空港を機能させていきたいですね。

対談を終えてトアロードを歩く角田嘉宏さんとキラン・S・セティさん

次代を創る⑥
神戸のニューリーダー

社員のスキルとマインドアップを

橋本 覚 株式会社神戸マツダ代表取締役社長

地域に根ざしたオンリーワンの企業を目指す（株）神戸マツダ。銀行員を経験した橋本覚社長は、人づくりを会社経営の中心に置いている。

はしもとさとる　1961年、神戸生まれ。85年一橋大学法学部卒業。同年、㈱住友銀行入行。90年ボストン大学ロースクール国際銀行法学修士取得。96年㈱神戸マツダモータース入社。2000年㈱神戸マツダモータース・㈱マツダアンフィニ兵庫代表取締役社長。同年、㈱神戸マツダ代表取締役社長。

留学、海外生活を経て銀行員から転身

―神戸マツダの創業はいつ頃ですか。

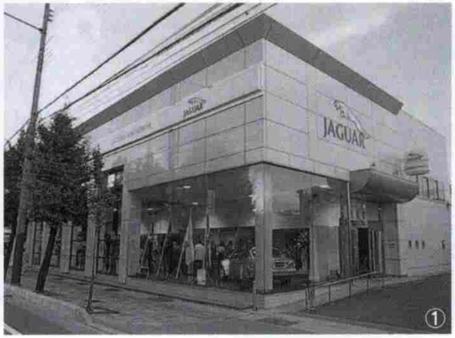
橋本　昭和16年に祖父が創業しました。自動車が普及する先駆けの時期で、東洋工業がディーラーを募集していたのです。ですからマツダのディーラーの中では、いちばん古い方ですね。自動車整備からはじめて、いまでは外車輸入まで扱うようになりました。

―大学卒業後は銀行に勤めておられたそうですね。

橋本　住友銀行に11年いましたが、そのうち5年半はアメリカにいました。ボストン大学のロウスクールに留学して、国際銀行法を学び、帰国後すぐにニューヨークに赴いたのです。国際審査部として、テロ事件で崩れたワールドトレードセンターの96階にいました。それが92年のことです。ですから93年の地下でテロが起きたときにはビル内にいたのですよ。エレベーターが止まってしまったので、2時間半かけて歩いて降りたのです。あれは怖い思いをしましたね。その後のニューヨークテロのときには、銀行自体が引っ越していたのですけどね。

―向こうでの生活はどのようなものでしたか。

橋本　とにかく朝が早かったですね。8時には必ず出社しており、早いときには5時半出勤なんてこともありました。東京とは昼夜が逆ですから、深夜まで残業もよくありました。良かったのは金曜日です。金曜の夜は、東京では土曜の朝ですから、5時には退社できましたからね。その代わり日曜の夜は大変でしたね。92年から96年までマンハッタンに住んでいたのですが、ニューヨークがきれいになり、治安も落ち着いてきた時期でした。私にとっては、メトロポリタンオペラハウスやカーネギーホールで、本場のクラシックコンサートを観に行けたのが、何よりも良かったですね。



①地域に密着した店舗展開を目指す。写真は2001年にオープンしたジャガー西宮・ランドローバー西宮

②2003年ＲＪＣカーオブザイヤー、グッドデザイン賞を受賞したマツダアテンザスポーツ

—神戸に戻ってくるきっかけは何だったのですか。

橋本　震災で自社ビルが半分倒れ、一ヶ月後には祖父が亡くなったのです。後を継ぐこと自体は、運命として受け止めていましたから腹は据わっていました。戻ってまずは大久保のマイカーランドで営業マンとしてやりはじめました。銀行の外回りで営業は鍛えられましたから、ほとんど抵抗はありませんでしたね。住友銀行には目標達成まで帰社できないZデーという日があるのです。Zはあとがないという意味です。ノルマが達成できなかったときの、月曜朝の会議は本当に緊張しましたね。

人を育てる会社　社長塾の開催

—社員教育の一環として、社長塾というものを開催されているそうですが、どのような内容なのですか。

橋本　自動車販売会社には商品というものがないのです。車そのものはメーカーのもの、車検は法律、保険は保険会社のものです。強いて挙げると中古車ぐらいのものです。そうなると人しかいないのです。人を育てなければ先がないのです。将来の幹部候補からパートの方まで、社長の話を聞きたいという人なら誰でもＯＫです。中小企業なら、社員と社長が直接顔を合わせて話すことなんて当たり前のことですよね。社長塾で話す内容は、経営のことから、政治経済まで様々ですね。社長塾に参加しようと言う、やる気のある若い人は勉強もするし理解度が早いですね。結果的には私のためでもあるのですよ。数字ばかり見ているより、現場で直接人と触れ合うことで元気になれますから。

—今後のヴィジョンはどのようにお考えですか。

橋本　自動車の市場は、数年前には６００万台であったものの、現在では４００万台に減少しました。これからの時代に生き残るには、地域に根ざしたオンリーワンの店舗でなければなりません。２００１年に西宮エリアにランドローバー、ジャガーの代理店をオープンさせたのもそのような意図があります。弊社はマツダ車の販売店としては全国的に見ましてもかなり健闘をしています。しかし、一寸先は闇という時代ですから。店舗のひとつひとつや、社員の生産性などレベルを上げていかなければなりません。社員ひとり一人のスキルとマインドを上げていくことが大切です。そして店舗には地域でいちばんの店になってほしいのです。なれるはずだと思っています。

fls
fls CO.,LTD.

デンマークファッションの“心地感”を神戸から発信

㈱エフエルエス　代表取締役　荒牧英樹さんインタビュー

昨年6月に神戸でデンマークフェアを開催し、のべ10万人もの来場者を集めた㈱エフエルエス。福祉国家の最先端をいくデンマークファッションの魅力について荒牧英樹社長にお話を伺った。

荒牧英樹代表取締役

なぜデンマーク？

—もともとはどういう仕事をされていたのですか。

荒牧　レナウンに13年勤めていました。営業、仕入れ、企画など、婦人服と子供服をメインにやっていました。ある日突然、社会性のある仕事がしたくて独立しました。いつか神戸で議員活動を行おうと思ったんですよ。それでまず地元密着を考えて神戸に戻って、広告代理業をはじめ衣料品販売の店をはじめたのです。

—デンマークブームはどう捕らえていますか？

荒牧　先日、デンマークの家具、服、雑貨などを一堂に集めた展示会を開催したのですが、それが話題となり延べ10万人の人が訪れたのです。いま日本にあるファッションはラテン系がメインなのです。ロンドンはパンク系であり、世界の縮図ですよね。アフリカ系も多く訳のわからないごちゃ混ぜなファッションです。パリはセーヌ川のイメージ通り、エレガンスなオートクチュール。ミラノの特徴は糸やカラーで、ミラノカラーが基本です。日本人にとって次の時代のファッションは

リラックスを主とした北欧にあると思っているのです。

—デンマークのファッションの特徴はどういったものなのですか。

荒牧　基本的には機能性と素材重視ですね。着ていて楽という居心地の良さが重要なのです。デンマークの人がいちばん欲しているのは気持ちのいい空間です。人間関係においても居心地のよい環境をつくろうとします。自分たちの居心地の良さが普段から重要ですから、環境問題などは特に意識しなくても、気がつけばやっているのです。これからの日本人は、「物欲より心地感」というデンマークの人の考え方に近づいていくと思いますよ。

神戸から発信したい心地感の追求

―自社ブランドとしてはどういった展開をされていますか。

荒牧　この業種に関わりはじめて6年になりますが、98年4月から自社製品をスタートしました。それがECOXです。こちらもデンマーク商品と同様、着心地感を一番大切にしています。百貨店中心に販売していますが評判も良く、年齢層も偏らずに幅広く売れていますね。コンセプトが今の現代に良く合っているようです。

2002年２月にオープンした旧居留地の「flsデンマークショップ」

―アジア進出などは考えておられますか。

荒牧　一時期、中国進出は考えていました。いま日本はデフレですが、中国はインフレですからね。中国からお金を持って帰るのは大変です。元を円に換えるのが大変なのです。いろいろと失敗もしました。ただ一つわかるのはこれからアジア経済は、東は東京と西は上海が中心になっていくでしょう。

―販売促進の工夫をいろいろとされているようですね。

荒牧　小売店や百貨店用にPR用のビデオ制作をしています。映像の反応は良いのですが、販売につながるかどうかはこれからですね。販売促進としてはまだまだ印刷物である紙が多いですが、うちは波、つまり電波を効果的に使っていきます。いつかは自社ビルにアンテナを立てたいと思っています。

今期の秋冬商品を前に。スタジオにて。

「デンマークのファッションは着心地も重視なんです。」と広報の荒牧英理子さん

―神戸へのこだわりはどういうものですか。

荒牧　まず神戸は住みやすいまちだということがあります。そしてこの半世紀、ほとんど神戸で過ごしてきましたから。良いものもたくさんありますし、交友関係もほとんどが神戸ですね。海と山に囲まれた光輝く街で人間らしく生きていきたいですね。そしてこの街から世界に通用する人、物、情報を発信しつづけたいですね。

―今後の展開としてはどのようなことを考えておられますか。

荒牧　ビジネス的に考えて、神戸のロケーションは最高だと思うのです。今ファッション産業は全国の購買力の半分近くが首都圏にあります。しかしあえて、この素晴らしいロケーションを利用して、神戸から発信していきたいと思っています。

株式会社エフエルエス
神戸市中央区加納町４－13－7　但銀ビル８F
TEL ０７８－３２７－３８１１
http://www.fls.co.jp

未来へはばたく明るい生徒さん達

若さあふれる厨房

ズラリと並ぶ作品の数々から溢れるエネルギーに圧倒される

★未来のシェフやパティシエを目指して

2月15日（土）神戸国際調理師専門学校で「第35回卒業料理・製菓技術創作展」が開催された。学生による洋菓子、和菓子、パンの作品や、日本、西洋、中国料理の作品を展示。また製菓の先生による実演を行うなどにぎやかな雰囲気のイベントが開催された。

未来のシェフやパティシエを目指し、神戸国際調理師専門学校へきた若者が、学園で習得した知識・技術をこれからどのように発揮するのか。その未来への大いなる可能性を今回の展示会で感じさせられた。彼らの感性と学園で学んだ技術とが創り出す作品の数々から、新しいエネルギーが溢れ出し、エネルギッシュな雰囲気をつくりだしていた。また、このイベントで出会う生徒さんそれぞれが活気に溢れ、訪れた人は楽しいひと時を過ごせたことだろう。

学園でのびのびと学んでこられた生徒さん達と接し、これからの神戸の食文化を彼らが創っていくと考えると楽しみになってくる。

★ピアジュリアン フェニーチェコンサート

目の前でオペラが…

左から　馬場恵子、馬場清孝、田原祥一郎さん

神戸で唯一のプロのクラシックライブが聴ける店として、様々な企画を催してきた「ピアジュリアン」。そのピアジュリアンで2月13日、2回目となるフェニーチェコンサートが開催された。オペラを気軽に楽しめるように企画されたこのイベント。出演はオペラ歌手の馬場恵子さんと馬場清孝さん。店いっぱいに集まった観客の目の前で歌う二人の美声に、観客は酔いしれた。また、場面ごとの解説をしてくれるので、オペラを知らない人でもオペラを楽しむことができる。最後にはテノールの田原祥一郎さんが前に出てきて、馬場清孝さんと共に歌い、面白い話で観客を楽しませた。

★菜の花フォーラム

（花育ては、まち育て、夢そだて）

左から　西川靖一、辻信一、天川佳美さん

あいさつは神戸市住宅局局長　西川さん

3月1日（土）「菜の花フォーラム」が東川崎地域福祉センターで開催された。西出・東出・東川崎地区まちづくり協議会が主催となり、ゲストに天川佳美さん、辻信一さん、西川靖一さんを招いてのトークショーなどが催された。

住民のみなさんが、湊町線沿道をはじめ、街なかに残っている空き地を利用して、草刈りから種まき・植え付けまでを自分たちでやり、約1万5千本の菜の花を育ててきた。その花の開花にあわせ、地域内外の交流会をはかり、これまでのまちづくりやこれからの夢などを語り合った。花を通じてのまちづくりがこれからも展開されていくことだろう。